

# 学校評価「木更津システム」の流れ

木更津市教育委員会学校教育課

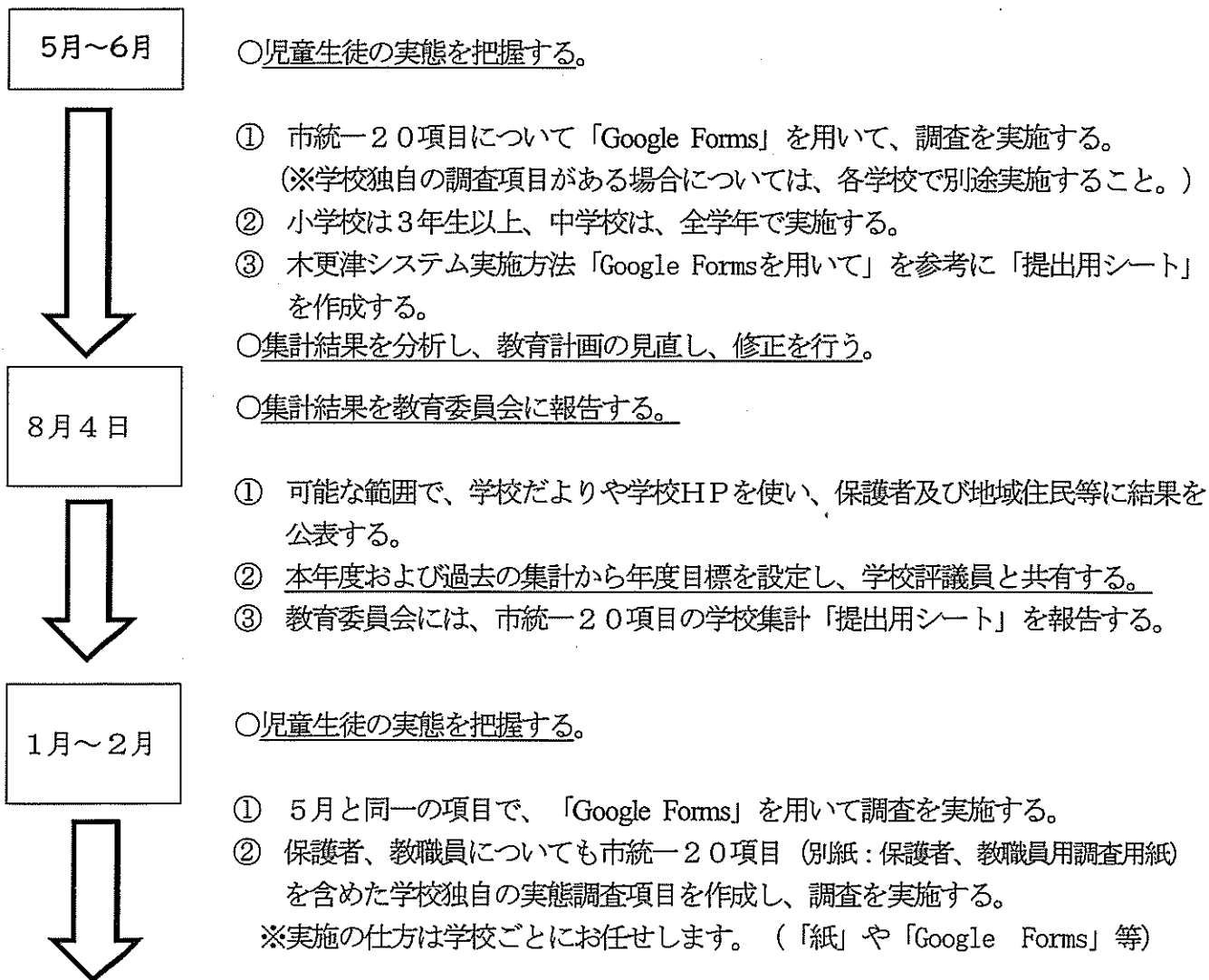
## 1 目的

- (1) 学校が、自らの教育活動、その他の学校運営について、自律的・継続的に改善を行っていくための視点を明確にする。
- (2) 学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たし、保護者、地域住民などが、情報や課題を教職員と共有しながら学校運営に参画し、その改善を進めていくための指標とする。

## 2 基本的な考え方

- (1) 児童生徒の変容を学校評価の基盤に据える。
- (2) 年間を見通した、学校評価のPRDCAサイクルを明確にする。
- (3) 外部評価を取り入れ、学校評価に客観性を持たせる。

## 3 「木更津システム」の流れ



1月～2月

○児童生徒の実態の変容を分析し、評価を行う。

- ① 木更津システム実施方法「Google Formsを用いて」を参考に「提出用シート」を作成する。
- ② 5月と2月の結果を比較し、児童生徒の変容を分析する。

【分析の視点】※あくまでも参考として

- ☆ 5月 ⇒ 2月 顕著に上昇した項目の要因
  - ☆ 5月 ⇒ 2月 予想以上に下降した項目の要因
  - ☆ 力点を置いて教育活動を行ったが、変化が少なかった項目の要因
- ※1月に実施する保護者、教職員の結果は、分析の参考資料とする。

- ③ 自己評価書（別紙：評価シート）を作成する。
- ④ 自己評価書を、学校評議員会からなる外部評価委員会に提示する。
- ⑤ 外部評価委員会は自己評価書を検討し、更に外部評価を行い、評価シートを作成する。  
※学校評議員には、学校及び児童生徒の実態をできるだけ把握していただくことが必要になる。
- ⑥ 評価シートを参考に、次年度の教育計画を立案する。

3月2日

○2月の学校集計結果「提出用シート」及び評価シートを教育委員会に提出する。

- ① 可能な範囲で、学校だよりや学校HPを使い、児童生徒の変容及び評価シートを保護者及び地域住民等に公表する。
- ② 年度スタート時、学校評議員とともに共有した年度目標の達成度を確認し、学校評価の資料とするとともに、来年度の目標設定を行う。